京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲一ヶ年前金三圓十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲一頁特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久嘉一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話大大三番　振替口座京城四五大番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

天壤無窮

奉祝天長節
本社創立第五年を迎ふ

大日本帝國の大祝日、天長節は來れり、世界に光榮ある菊花節は來れり。

顧ふに、我帝國の、萬世一系の皇統を繼ぎ、昌運久しきに亘て渝ることなく、旭日沖天の勢を以て倍々光輝を加ふるが如き、往古來今洋の東西を通じて、其儔を見るものあらず、宇內に冠絕せる國體とは獨り帝國臣民の自から誇りとなすの常套語にあらざるのみか、實に世界の神蹟として羨稱已まざる所ならずや。

伏て惟みるに今上天皇陛下天稟地變の德を以て、乃神乃聖の威を兼ね極を御して以來、維新更始、開國進取の國是を定め玉ひ、憲政の治を布き、議政の府を創し、百度張つて、萬般整ひ、皇威愈々熾にして國運發々榮へ、眇乎たる東海の島帝國をして、一躍世界强大國の班に入らしめ、北は樺太より南は臺灣澎湖島に及び朝鮮半島關東州、苟くも帝德の被る所、皇化の及ぶ所、六千萬の民悉く聖恩の洪大無邊なるに感泣せざるはなく、殊に皇威皇風の普ねき領土は平和安穩、各其業に勵み、其職に安んずるもの、是れ陛下が博愛仁慈にましまして、臣民の安危休戚に大御心を注がせられ、璽章政令の綱目張は言ふ迄もなく、濟生憐恤に軫念を勞させられ玉ふ等、億兆を子養し親疎遠邇の別なきに由る。我國民が、此大君の前には身命を捧くるも尙足らずとし、常に感泣措く能はさるも亦所以なしとせむや。吾人又聊か感恩の一端として、五年前の本日に當つて本紙を創刊し以て陛下の御國の爲めに盡すあらんことを期せり。而して其當時は、我帝國の武威四海に耀き、國運駸々として進みつゝありしと雖も、朝鮮半島は未だ我領域に入らず、帝國二千年來の懸案之を如何にして解決すべきかは、上下窮かに心を痛めつゝありし秋なりし。

然るに今や半島は我領有に歸し、新附の民は我皇の聖恩に浴し我仁政の下に永年の苦患を免がれ、帝化愈々四表に溢れ、萬祥臻り、盛德の興る山の如く高く日の如く昇りを見る。外國の民皆欽畏羨望せざるなきを見る。臣民の面目何物か之に若かん。況んや毎に社會の耳目を以て任する操觚者に於てをや。於是乎、吾人操觚の職に在る者は更に一段の發奮なかる可からず、故に吾人は創刊第五年の本日、讀者に對し、益々吾人の責務を明らかにし、以て民間新聞の本分を全ふせんことに努力すべきを告白す。而かも此告白をなすの日は、即ち天長の佳節に際す、吾人の光榮眞に極まれりと云ふ可し。

嗚呼盛んなるかな。年々歲々瑞氣彌々茂り榮ね、天佑限りなき祥を示せる、天長の佳辰は第六十回し來れり。此日金闕に天樂起り、玉階百官頌を奉る草莽の百姓亦齊しく賀を奉るを許らせられ、山村水郭苟も人ある所、則ち旭旗風に飜へり、頌聲の拆なり、芳薰高く奉祝の歌あり九天に奏す、誠にこれ大平の象、隆興の兆なるかな微臣吾人等、何の幸か、筆を採り、聖德を舒ふるを得る者、こゝに一枝、黃菊を騈し、東天を拜して聖壽の無疆を祝し奉る



雜錄
●新領土の舊山河(九)
吳　越

▲鴨綠江(七)

◎明治三十七年八月十三日、帝國政府の命を承けて在露公使栗野愼一郎は協商の基礎條件を提出せり、其中の一項に左の如きあり

今後韓國鐵道を滿洲南部に延長して東淸鐵道及山海關牛莊線に接續せしめんとすることあるも之を阻礙せざるべき事を露國に於て約する事

是日本に於て安奉線及北淸連絡線の敷設をなさんとするもの當時の露國にとりては不可なるや論なし、露國政府は十月三日の對案に答へて曰く滿洲及其沿岸は全然日本の勢力範圍外なりと。

加之韓國の領土は其一部たりとも之を日本の軍略上の目的に使用すべからず北緯三十九度以北の韓國領域を擧げて中立地帶となさんと提議せり

◎北緯三十九度は平南成從の附近より元山港に引れる一直線、露は大同江を以て滿韓の新なる境界となさんとせるなり、半島を殆んど二分して其一を保たんとせるなり、中立地帶なる語は種々の都合よき別名を有す、我政府は如何なる意義に解釋せるにや更に中立地帶を設くる必要あらば滿韓境界の兩側に跨り一定の距離、各五十キロメートルに亘る地區を以てせんと提案せり。

◎然かれども露は自己の原主張を維持し、動かず、日露干戈を執り砲煙の間に見るに到れるは果して幸か不幸か、鴨綠江の兩畔各地を中立地帶となさんか平和は或は買はるべく、帝國の宏謨夫れ何くにか求めん、頃日博士ジョルダン來つて頻りに平和を說く、平和や大に好し、苟安的平和斷じて不可なり

鴨綠江開擂を要ふ者思を茲に致して可

◎露國滿洲第一期の撤兵を結了せし後駐淸露公使レッサーは其怪腕を振つて江口右岸の龍岩浦を租借し條約を締結して二十五萬坪の地を得たり、其意旅順大連と呼應し黃海渤海の主權を掌握し以て滿洲を自家藥籠中のものとなし終らんとせしや明かなり、故萩原守一が當時公使館書記官として韓國にあり龍岩浦に上陸せんとして拒絕され物議の源なりしは尙記憶に新なる所なり今や露國の羈絆去つて跡なく萩原亦他界の人となつて唯一場の昔談りと也ぬ


春秋會員
武田□□□□□□


春秋會員
牧山耕造


春秋會員
横尾信一郎

評論の評論(一)
愚翁

何をか評し何をか論ずる、之れ豫め言ふの要なく又かねて言ふを得じ、世事多端、人事綜錯、唯情に感じ心に思ひ意に通せし社會上にだける有ゆる問題を拉し來つて評論を試むるに過ぎず、換言すれば隨感隨筆の類にして更に之れを譬ふれば隨庵汁の如きものゝみ、筆の向ふがまゝに献立を案ず蓋し鹽加減の如何は讀者の判斷に任せん、予は但偏に予が信ずるところの立場によりて之れが感想を述ぶれば足る敢て他意あるにあらず焉。

附記　問題の如何により普通文体あり言文一致体あり豫め諒とせられ


元春秋會員
岡野養之助

る、蓋し○○新聞の如きは其一例ではあるまいか、娼妓の自廢問題を物にした當時の○○の勢力は實に素晴らしいもので正に勇士功に誇るの慨があつた而して其の滿を持した矢は遂には所謂匹夫の勇と化して猥りに弦上より放たれ岩谷征伐を切つかけに三井攻擊に氣を追ひ散らし勢餘つて行手の喬木にか鼻梁を突き當て卒倒したのと同樣である、さはいへ○○は未だ形骸に於ては滅亡はしないひ衰微敗殘窮年の保は夢にも見ることが出來ぬ、要するに社會の同情は新聞紙に取つては重もなる要素の一つであるといふ事を忘れてはならぬ。


春秋會員
釋尾春芿

如くはない、蓋し新聞紙の榮ふると滅ぶるとは偏に時代に先んずると後るゝの何れかにあるが近代にいたつては其の反響が特に著しい、されど新聞紙が如何に時代の先驅者を以て任じ居るとはいひ、社會の同情にして缺くるところあらん乎其の新聞紙は到底永遠に亘つて持續し得べきものではなく遂には自滅の悲運に陷るの餘儀なき場合となる

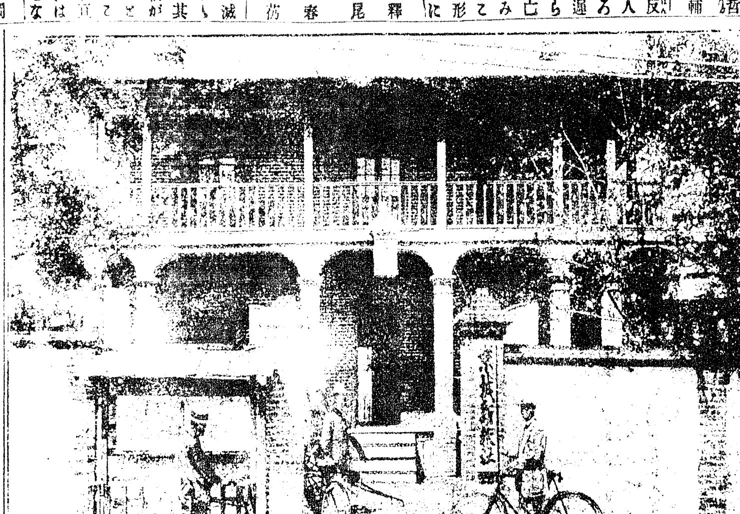
有して居らねばならぬ、若し之れに反して苟も新聞紙にして時運の風潮と人心の趨嚮とを指導して其の向ふところを明にするの能力なく却つて時代に遲れ若しくは時代に支配さるゝことあらんか既に其の新聞紙は事實に於て滅亡したもので社會上何等の效益なきのみか寧ろ時として世を過り人を惑はすとの保し難きを以て是等の新聞紙は形に於て一日も早く滅亡するの勝れるに


春秋會員
豐田鐵哲輔

▲近代新聞界の變調▼(一)

新聞紙は警世の木鐸社界の耳目てふ文句も古めかしいが、要するに新聞紙の思潮及び趣味は言ふ迄もなく時勢の變遷と世運の推移とに伴ふものである、否な寧ろ新聞紙は時運の風潮と人心の趨嚮とを指導して其の向ふところを明かにせざるべからざる天職を有するものたるを以て常に其の時代の先驅者を以て任じ事々物々社會上の問題に就て燃犀なる觀察力と俊敏なる批評眼とを

歌を擧げたる餘勢に乘じて警視廳に肉薄した迄は宜いが實其慢心に驕れて有らうことか有るまいことか道は同業者の發行紙數を想像的に捏造して大膽にも之れを紙上に發表し而して自らは十五萬の發行數を有すと自稱して一面暗に自家の發行紙數の多大なを誇つたが是等の事はソモ〳〵社會の同情を失墜する原因であらう其の後日露戰爭の起つた際何んの爲体か嫌疑とはいへ露探の醜名を負はされたのを最後の幕として爰にいよ〳〵社會の同情を失つて了つた、宛かも之れを譬ふれば向見ずの野獸が縱橫無盡に狐狸


創立第五年を迎へたる本社

外事一束

▲佛白●　兩國手取九十六利率六分條件を以て九千萬法の淸國借款に應ぜんと

▲在淸●　列國公使等英公使館に時局に關する會議を開く居中調停の件と傳ふ

▲無罪●　と重賞を授くべきを保して責世凱革軍主將元洪に歸順勸告書を送る

▲官軍●　漢口回復の勢に乘じて大部隊を率ひ漢陽に前進して革命軍を追擊す

▲議會●　速開を以て民意を容れんと主張する者政府部內親王貝勒中に夥しく

▲資政●　院をば改めて國會たらしめんと說き資政院は完全なる內閣を組織し

▲憲法●　制定には人民の協贊を求め革命黨の控察を解くの上奏案を可決せり

▲湖南●　地方に暴徒起り掠奪殺傷一千余有而も是革命軍外の無賴の徒なりと

▲廣東●　總督國旗を變更し兵糧及軍用金を讓與せよとの革命軍の要請に應諾

漢詩

辛亥中秋於錦水樓設開山陰詩會席上有梨雁先生賦出雲伯耆之詩先相爭見視唱和我又有固疾不忍默過即和之
加藤游鶴

出雲美保關與伯耆境僅隔一葦而兩々相持極殷賑有竹枝關與境通一橋一夜擯得爲壯游焉因及初首起句

關境一橋正合歡。羽觴遞莫厭漁簑。變蓬且又松江近。鱸膾純鰻酒味多。沐均若老蠹好酒腸。一下一百玉楯章。飛賑睡我詩句。醜裏案囊有此藏。瀟夢寐攜鐫看作詩。身融會賤任鄉時。江明月今宵。把丸玉杯登鳳毽。

東京電報

▲大演習行幸仰出さる
一日官報號外にて　天皇陛下には福岡縣下大演習に行幸の旨仰せ出されたり

▲井上大將元帥となる
海軍大將にして軍事參議官たる井上大將に對し從來軍務上貢獻せる多大の功勞を思召され三十一日午前十一時宮中御座所に於て元帥府に列せられ特に元帥の稱號を賜ふとの御沙汰を賜はりたり

▲清國海軍の損害
數日來の戰鬪に於て薩提督の率ふる軍艦は革命軍砲擊のため三隻大破したり

▲派清軍艦の動靜
目下長江筋を警戒中なる帝國軍艦は川島第三艦隊司令長官坐乘の旗艦を初め襄陽には隅田宜昌には和泉漢口には龍田千早外七隻の驅逐艦碇泊し夫々危險を警戒中なるが尙南京杭州鎭江廣東方面の形勢危險なるを以て最上艦を派遣する事となり既に佐世保を出發したる此程各地領事より續々軍艦の派遣方を懇請し來たるより更に軍艦を增遣するに至るべし

▲日本婦人の負傷
流丸に中りて日本婦人一名負傷せり

▲福州安慶の不穩
福州及安慶愈々不穩となり安慶に暴動起れり

▲英國鐵道員の罷業計畫
英國にては又々鐵道員大同盟罷業劃策せんとする恐れあり彼等の各地に備したる集會は其苦情解決の爲め任命されたる委員側の報告を承認する事を肯せず同盟會の命あれば直にストライキを起すべしと樂觀せり

上海電報

▲漢口の通信回復
官電　漢口に於ける通信權利を得たるため漢口に於ける通信事業及鐵道事業共舊に復せり

▲官軍勝利公報
廕昌　北京政府に電奏して曰く官軍は三道橋を渡り敵軍を破り多數の敵を擊破し多數の大砲小銃を鹵獲し官軍は尙進んで劉家廟を占領し降雨中にも拘はらず官軍は勇敢に奮鬪せりと

▲革軍漢口逆襲
革命軍は決死隊を募り二十九日漢口を逆襲し更らに三十日又々激烈なる砲擊をなし終に漢口は再び革命軍の占領する所となり各所に大火災起り焔々と延燒しつゝあり

北京特電

▲革命軍の猛勢
山西省太原府の革命軍は勢益々猛烈にして已に鐵道を破壞し官軍の征伐を防止し機熟するを待つて大擧北上すべく準備しつゝあり諸所に革命黨蜂起の警報頻々として來り形勢日に險惡なり

▲江岸戰鬪死傷
二十七八兩日の官革兩軍の戰爭に於て死傷者千餘名を出したり


海津民會議長

▲清國海軍活動
清國の海軍は漸く活動を始む

▲各國滊船避難
漢口碇泊の各國の滊船は軍艦を除くの外過日の戰鬪開始と共に十二浬の下流に避難せり

▲北京軍隊動靜
北京附近の官軍各部隊は上諭に對し甚だしき不滿を懷き不穩の形勢を呈せり


古城民長

▲各部隊上奏案
北京附近の各官軍は上諭に對し十二條より成れる上奏案を電奏し若し一字一句たりとも採用されざれば最後の手段に訴へんと意氣激昂し居れり

▲諮政院秘密會議
軍隊よりの上奏案に對し諮政院にては其處決問題に關し目下秘密會議開會中

▲直隷省に進擊
太原の叛軍は巡撫衙門を燒き巡撫家族の外滿人二千を殺し直隷省に進擊す


深水商議副會頭

雜報

●東拓移民承認
東拓會社第二回移民申込總數は一千五百五十六戸なるが內不承認八百六十二戸未處分百十八戸にして愈々承認を與へたる者は五百七十六戸なり然して之を府縣別にすれば佐賀の百十八戸最も多く福岡の七十二戸山口の六十二戸之に次ぎ德島の二十九戸慶尙南道の二十八戸岡山の二十六戸福島北海道の二十一戸高知の二十戸三重の十九戸新潟の十六戸熊本の十四戸長崎の十三戸山梨岐阜の十一戸石川廣島大分京畿道の九戸兵庫七戸福井愛媛の六戸慶尙北道の五戸香川の四戸等にして其他は一戸乃至二戸なり而して團体二十六、三百戸單獨二百七十六戸

●手形交換成績
十月中に於ける當地手形交換所の交換手形類別左の如し

證書種類	枚數	金額
小切手	一〇、九二七	三、二六一、三四八、〇六
送金手形	四三〇	三三三、一三五、三九
約束手形	四	一九、三一〇、八五
仕拂命令		
出給命令	一、三一八	六七六、八四七、一一
郵便爲替證書	一、六四七	二七一、五八三、三八
公債償券利札	七四四	七六二、〇〇
雜證票	二六〇	三九七、六七五、三

右を持出し各銀行別にすれば左の如し

銀行名	手形類數	持出手形額
朝鮮銀行	九九六	一、〇四八、九八七、三三
第一銀行支店	三、四七一	一、一三二、八三一、九
百三十支店	四、二四五	八〇五、〇四五、五三
十八銀行支店	二、一一九	六四一、八三七、六
漢湖農工銀行	四八一	二五一、五〇〇、二
朝鮮商業銀行	二、八六一	五〇七、三五三、九二
韓一銀行	二三七	一六五、七〇四、一
漢城銀行	二二五	一三八、八二六、〇
京城郵便局	七二五	二七一、五六五、三六

●廣梁灣製鹽高
北廣　廣梁灣の總督府經營鹽田九百三十三町步の工事は昨今九分通りまで竣工し四十三年度に二十五萬八千四十三斤の製鹽に過ぎざりしもの本年一月より九月迄に二百九十八萬八千三百四十三斤を製鹽せりと

●總督一行歸京
鴨綠江架橋落成式及安奉線開通式に臨場のため新義州方面へ出張したる寺內總督の一行二日午後六時夕刻歸京

●內地人家屋買入 土地家屋增加
既報の如く京城府廳にては土地家屋の賣買及典當貸借の爲之れが證明を出願する者多く大に多忙を極めをれるが昨今一日平均七八十件に上り其中不動產賣買に就ては六分通りは鮮人の內地人に賣渡をなすものにして今後內地人の移住增加につれ益々件數上るべしと

●仁川灣海老漁
仁川　仁川灣に於ける海老の漁獲は一ヶ年約十萬斤にして百斤入大抵四圓位の市價を保ち居れるが之れが買入者は殆んど支那人にして支那人は該海老の皮を剝きて百斤に付三十五斤の眞肉を得一斤二十五六錢にて販賣しをれり然れども現今朝鮮人の海老乾燥製法は至つて幼稚にして殆んど腐敗に近き粗品を賣捌くに過ぎざれば京畿道廳にては之れが改良に鋭意力を用ひ此程改良製法傳習をなし先づ蒸方を敎へ上等養料より肥料に至るまで五種の製造を漁民に敎授し漁民等も其の有利なるに感じ競ふて改良製法に着手するに至り成績頗る良好なりと而して改良製法によれば百斤に付四十五斤乃至五十斤の眞肉を得べく價格亦一斤四十五錢乃至五十錢の高價を保つのみならず眞肉を得たる後尙四種の副產物を得ることゝなり其利益蓋少なからざれば今後仁川灣に於ける海老漁は極めて有望なる一事業たるに至らんといふ


民會議員　和田常一


朝鮮總督伯爵　寺內正毅

◉露國總領事[illegible]城駐在露國總領事ソモフ氏は今回政務官として他に轉任し後任としてアクチュル氏任命せられたり

◉道路擴張委員會　既記の如く二日午後六時より當地商業會議所に於て市內道路擴張委員會を開催す


民會議員　中村再造

天長節祝賀彙報
三日併合後第一の天長節を奉祝すべく市內各官衙、團林、各商店等の祝賀次第は昨紙所報の如くなるが尙ほ洩れたる分を列記すれば

▲奉祝會順序
既記の當地鮮人合同、祝賀會は三日午前十一時より南別宮構內に於て擧行さるゝ筈なるが更に其の擧式順序を擧ぐれば如左

一煙火を合圖に午前十一時開催、二正午來會者着席、三爆竹を合圖に一同式場へ集合、四開會の辭、五奉祝の辭、六君が代奏樂、七一同萬歲唱和、八閉式、九零時三十分爆竹を合圖に酒肴券引換、十模擬店開始、十一餘興（藝妓、妓生の手踊、綱渡り、童舞）十二隨時解散

▲總督官邸園遊會
三日總督官邸構內に於ける園遊會次第を聞くに如左

午後二時三十分開始午後三時三十分第一爆竹合圖を以て王族親勅任官同待遇者各國領事官及婦人入場午後三時四十五分第二爆竹合圖を以て男子入場立食後憲兵隊司令部正門より隨時退散

▲裁判所の祝賀
高等法院、控訴院、地方裁判所、區裁判所の判任官以上の各官吏は當日午前九時半より地方裁判所會議室に集合し渡邊高等法院長の發聲にて　陛下の萬歲を三唱し終つて奉祝の宴を張ると云ふ

▲佳節と在鄕軍人會
在鄕軍人會京城分會にては既報の如く午前十時より漢陽公園廣場に於て左記の順序に遙拜式を擧行する筈

一遙拜式並勅諭捧讀式、二万歲三唱、三祝盃、四解散

御會員は各自勳位官等及氏名を認めし名刺携帶會場受付に差出す事

▲各町の餘興
本町六丁目にては全町內を東部、中部、西部の三に分ち東部は六七丁目の中間、中部は商業銀行前、西部は五六丁目中間に各辻從灯を揭げて祝意を表し本町五丁目は四丁目入口、五六丁目に枠柱を建て大角燈を吊し揭げ長谷川町一、二丁目は各町內四ヶ所に提灯及び國旗を揭げ又た諸町の奇拔なる假裝行列にて市中を練れし各祝意を奉すべく其他各町にも夫れ〜種々の催しありと

▲各商店の奉祝
大和町平山牛乳店にては早朝百發の爆竹を合圖に擊劍大會を開き飛入勝手とし又た三巴商會にては百餘名の商會員各自に長さ七尺幅一尺の酒德利の形したる帽を戴き市中を練り歩くべく其他本町通の各商店亦各自思ひ〜に意匠を凝らしたる奉祝の飾り物を店頭に飾り立つる等夫れ〜奉祝準備に多忙を極め居り

▲官邸園遊會餘興
總督官邸に於ける大園遊會餘興に付ては數日前より餘興係員は鋭意其準備に着手中なるが餘興種類は、打揚花火、日鮮樂隊奏樂、鮮人綱渡り、朝鮮角力活人畫喜劇其他嶄新奇拔なる各種の造り物等なるが右は何れも模擬店開始前後適當の時機に於て開演する由なり

△京畿道廳の拜賀
天長節當日は京畿道廳に於て午前八時三十分御眞影を奉掲し同四十分由官拜賀し以下高等官、判任官、道廳雇員、各學校長、教職員生徒、順次拜賀し右了つて十時より十一時迄の間に一般人民の拜賀を許し十一時に閉扉すべしと云ふ因に一般人民の拜賀者には冷酒するめを供す由


民會議員　高橋章之助

鴨綠江鐵橋初渡記（一）
附道中滊車くりげ　スイロー生

◉時は維れ十一月三十一日午後九時四十分、記者は鐵道局長官大屋權平君の招待に因り、鴨綠江鐵橋開通式に參列すべく安東縣行の臨時列車に搭じて新義州に向ふ。

◉車中同乘者に佐竹義準、森安博士、釋尾旭邦、宋秉畯、深見淸、山口精、海津三雄、內田竹三郎等の諸君及び他に幾十の諸君あり、サテ一行世話係として乘込みたるが鐵道局參事補の矢野君、此人我等と共に行かば萬事安心なりとて、皆々ソーファに腰を卸す、トタンに滊笛一聲我滊車は南大門驛を離る

◉滊車開城驛を過ぐる頃同車の外人二人身をソーファに橫ふ、其形恰かも海老の如し、乃ち知るソーファの長さ外人にとつては餘りに短きに過ぐるを、而かも斯く短かきは彼れ外人にとつてのみならず森安博士山口書記長等の如き一行同人中小兵を以て誇る人々にとつても尙且つ短かゝに失す、我朝鮮鐵道列車中のソーファは到底改良を要す。

◉本線驛其他各驛より我臨時列車に搭乘せる日鮮紳士其數百餘、明くれば定州驛にて日の出を拜し、辨當を仕舞ひ思ひ思ひに身支度を調へ、午前九時四十五分新義州驛に着す。

◉新築新義州驛停車場は國旗紅白の幔幕及び綠毬を以て飾らる、玆に鐵道事務官の福田君及び驛長其他余等一行を出迎ふ、余等觀光團もどきに滊車を降り、打揚げ煙火に氣を勇まし、導かるゝ儘に式場に進む（未完）


民會議員　三好和三郎

●東拓會員家宅搜索一件に就いて
東拓會社大邱出張所員が不正の嫌疑によつて家宅搜索を受けしとの事に付て東拓會社土地買收課に就て聞く所によれば右家宅搜索を受けたりと傳へらる藤繩某黨阪某などは何れも東拓社員にあらず從つて東拓大邱出張所員不正嫌疑云々は全く事實無根なりと否認せり


民會議員　曾我勉

●朝鮮十一月號
雜誌朝鮮十一月號出づ口繪「天壤無窮」「千代万代」「傲霜」等何れも鮮明卷頭論說には旭邦子の「十一月と云ふ月」「朝鮮人の同化力」の二篇あり前者は短文の中に深長の意味を含ましめ後者は精緻徹底言はんと欲する所を言ひ盡せり『朝鮮人同化論と名士』は山縣政務總監倉富宇佐美國分關屋其他名士の所見を蒐め經世家の參考となるべきものあり論說中の道家林學士の「佐化と同化」撊樹一郞氏の「[illegible]にあり」共に誦すべし此外研究欄は例に依て見落す可からず訪問錄中旭邦生の『朴泳孝侯を訪ふ』面白し文苑雜纂實業資料不相變振へり（一冊二十五錢本町日韓書房にあり）


民會議員　岩田仙宗


商業會議所議員　池田長兵衛

●上田司令官の歸任
新義州開通式に參列の上田軍司令官は昨二日午前九時[illegible]京したり

●軍司令官移轉
上田軍司令官は近日中に長谷川町の大觀亭より龍山の軍司令官邸に移轉の筈にて其後に於ける大觀亭は總督府にて何等かに利用すべしとの事也

●宇佐川總裁の歸京
北鮮地方視察中の宇佐川東拓總裁は一日夜歸京す

●龜井氏の仁川行
入京中の貴族院議員龜井英三郎氏は二日午前仁川に赴き同地の警察狀態及び市中の狀況を視察即日歸京せり

●京都商業生徒出發
去月二十九日夜入京見學中なりし京都市立商業學校職員生徒五十九名は一日夜南大門發大邱に向ひたるが二日大邱一泊の上馬山に向ひ四日釜山より歸校する由

公人私人
▲中山友雄（皮革會社取締）一日出發釜山へ
▲前田復三（三菱造船所技師）同投宿天眞樓へ
▲正木良一（同上）同
▲大深淸高（會計檢査院檢查官）巴城館
▲眞鍋元祐（同書記）同
▲桑名才藏（同上）同

▲京城手形交換高▼

十一月	金高	枚數
二日	一二五、四五九、〇〇圓	九〇二

▲治外法權▼
本日は維れ我歡聖文武天皇陛下寶算第六十の天長節、目出度しとも目出度し▲思起す今より六年以前乃ち明治三十九年の天長節に當時一進會の會長たりし李容九其他が記者を案內者として統監官邸に參賀をした▲故伊藤統監は正裝し、時の鶴原總務長官、木內農商工部總長、鍋島外事總長、村田陸軍宮岡海軍兩武官、國分通譯官及び兒玉書記官等を隨へ李容九以下を鄭重に迎ねた▲平素は放膽なる李も此時は總身を慄はして頌德表を讀んだ、藤公は慈父の家兒に對するが如く莞爾として頌德表を受取り、ソウして該表の旨を直ちに傳奏すべしと答へられた▲之れを聞く李容九等は官憲ならぬ朝鮮人としては、始めての參賀者であつた、今や時世一變、一千三百万の鮮人は　陛下の赤子、李完用、朴齊純趙重應の三人鮮人を代表して本日千代田宮城の御宴に陪す、目出度しとも目出度し▲出度しと云ふべきである▲明治四十年の天長節當日に創立した我京城新報社は本天長節の當日を以て正さに第五年を迎ふ、薄運なる同業者は過去四年の間に悉く陣沒した、彼の御用紙京日の如きも三度持主を換へた、併し併し多幸なる我社は數知れぬ筆禍に見舞はれしも尙餘命を繋ぐ、皇恩無窮我社の上にあるは我社同人の感謝する處だ。



奉祝天長節 本社主催 手古舞行列

▽京城藝妓總出

本紙の廣告に見ゆる如く當地中、京兩券番大小藝妓一百餘名は本社主催の下に愈々三日午前十時を以て日の出町日出小學校運動場に集合し、たつゝけ袴、草鞋穿、片肌脱、男髷の扮裝に花笠を背負ひ金棒を携へ東京名物

神田祭式

手古舞姿にて新作木遣唄を歌ひ囃を押し立て豫定の順路を長谷川町兩別宮（圓丘壇）なる京城民團主催祝賀會場に乗込み更らに廣告せられたる順路を練り歩き天長節を奉祝する筈なるが何分斯の如き快行列は京城開闢以來未曾有のことゝて

藝妓連の氣込は非常

なるものにて各妓共十數日來親しく其道の名人に就きて木遣節、步調の練習に餘念なく入湯の時間も惜み殆ど寢食を忘れて只管之れに努め抱主連も亦大氣込にて互いに敗をとらせまじと抱妓共の練習を奬めつゝありされば其の節廻しの如き大に聽くべきものあり加ふるに其の扮裝の如きも悉く東京土着の老人にして手古舞に深き經驗を有するところ右一百有餘の大小藝妓が踪躍する某消防夫の差し圖に依るものなれば

神田祭の夫れに比して聊

遜色無きは敢て本社の保證する所閭旗、幔幕、大行燈其他にて美々しく裝飾を施されたる各町を練行く美觀は蓋し想像の外なるべし

天長節 奉祝會場案内

▽附注意事項の數々

民團主催の天長節奉祝會場なる圓丘壇内の式場其他設備の模樣を左に報せんに

◎會場入口　長谷川町通を下りて軍司令官々邸に曲る右側の門にして四本の圓柱は紅白の布を以て掩はれ日の丸の大提灯を吊り祝賀會場と筆太に記され

◎式場　門を入りて眞直ぐに百六十步にして左に折れたる二百餘坪の芝生にして秋空高く萬國旗飜り會衆二千人を入るに足る一段高き場に式場を設けて紫の幔幕を以て掩ふ

◎貴賓休憩室　式場の背後小門を入れる二十餘坪の天幕を張り紅白の幔幕を引き廻せり

◎餘興場　正門を入りたる左側及び式場の前面の二個所に在りて別項所載手古舞姿せる中京兩券藝妓の手踊あり

◎食堂　三千坪に餘る會場内の中央に百餘坪の立食堂を設け式場附近に在る二個所の折詰券交附所より引替券を受けて立食場に入る順序なり

◎模擬店　圓丘壇の周圍其他に十二個所の模擬店を設らへビーヤホール日本酒ホール朝鮮料理汁粉蕎麥れでん等上下戸兩黨の好ひが儘なり

◎注意　圓丘壇上には堅く登壇を禁ず入場の際は正門より入り散會の際は正門及び式場前の小門よりす當日は寺内總督を初め朝野名士多數臨場の筈なれば定めし盛況を呈することゝならん



商業會議所議員　大橋清三郎

天長節と龍山

三日天長節祝賀に付き龍山方面の概況を聞くに龍山に於ては居留民團地和歌の家藝妓八名打乘り之れに引子百餘名と共に關路新龍山方面に繰し立て練り歩くとの事又同地桃山遊廓にては仁和歌芝居一座の催しあるとの事次に新龍山方面にても多少何等かの催しあるべしと當日市街は日章旗と秋風と相和して歡天喜地瑞氣天地に滿つるならん

五藝妓涙の内情（四）

▽他人の娘を喰ふ人鬼

▲然しも小金丈　既に以前の小金にて無かりせば道の事なれば兎角を覺束なく萩原も其縁談を承諾せざりしが據ね難き威脈に遇ひて終に最初の決心も緩み且つは堀内家の相續者と成すべしとの一事を力に洋行中の萩原に宛て唱へし



民會議員　徳久米藏

▲一旦泥水稼業に慣れたる身は數へ嚴しき學校生活、堪ゆ得ざれば本日限り身の暇を賜はれかし、然りながら元來君樣とは飽りも飽かれもせぬ交情なれば身を終る迄深き情けの程は忘れ申すまじく候ぞ、誠空事打ち混せたる手紙を投げ附けて再び抱へられし

▲金子及び女將れくに等と共に再び渡滿すべく四十三年十二月下旬名古屋停車場に車を列ねて乘り着けたる□流車を待つ間の待合室にて女將れくには金子に向ひ旅費金四十圓を支出せよと云ひしに對し金子は旅費萬端主人持ちの約束なりしに非ずやと答へしに开は何かの間違ひなるべし兎に角立替へ置くべければとて何やら書類樣のものを取出し

▲突嗟の間に捺印せしめたり何分出發間際の事とて殊には未だ十八の女の事て前後の思慮分別もなかりしなり、斯くて渡滿後は小金も金子と同じく藝妓の營業鑑札を受けしも當時同地方はペスト病大流行を極めたるより一月より三月の下旬迄は殆んど營業休止の狀態なりし爲め樓主は不景氣を口實にし食費金三十圓の支出を迫り押問答の末が此又同じく立替置くべしとて何とも判らぬ書類に捺印せしめたり（つゞく）

●修道館 柔道大會　大和町一丁目東洋協會内修道館にては來る五日正午より第四回柔道大會を催し勝負の外二段小田内部事務官の講話、初段總督府醫院醫師の「少年と柔道」なる談話あり何人も參聽隨意なりと

本社主催 奉祝天長節神田祭式手古舞行列次第

一、日　十一月三日

一、人員　中京兩券に屬する大小藝妓總出

一、行列扮裝　草鞋穿タチツケ着用金棒火の用心携帶

一、行列道筋　行列道筋は日の出町集合地を發し順路長谷川町京城民團祝賀會場に入り更に長谷川町を下り大漢門前に出て太平町を通過して南大門外に出て引返して南大門通三丁目を民團役所前に出て本町一丁目より本町筋大和町を練り總督官邸前を倭城臺に至る

一本社新作木遣唄

めでためでたの、てんちやうせつよ

くにはさかゆて、たみはさむ

きくのさかりに、うれしきゆめの

さめりやかがやく、日のみはた

にすせんけふだい、手をとりあいて

するのすゑまで、いはいましよ

右は我が京城開闢以來未曾有の快行列にして其壯其美人目を新たならしむるに足るものと信ぜられ候願はくは滿都の士女諸君刮目して賞觀あらんことを

十月　京城新報社謹白

▲事を粗末にし冷遇甚しかりしより總代を撰みて領事館に樓主說諭方を願出でたるにぞ名倭人高津政次郎は痛く訓戒されたり茲に

▲五藝妓中の姉分　金奴は東京神田美土代町二丁目生れにて本名を小林てる子と云ひ當年二十四歲なるが堀内に抱へらるゝ以前即ち四十二年十二月迄は東京芳町より出で居たるが周旋屋の吹き廻る滿國奉天の好景氣にて滿手で舉の餌ありとの話に乘つた外十名の藝妓と共に金子の契約と同一に歸國旅費は藝妓の負擔とする外一切主人持と云ふ事にし公證役場に於て

▲公正證書を作成したるも悉く代理人として周旋屋出頭作成したる契約書は主人の手にあれば肝腎の本人たる藝妓は事實如何なる書なるかも知らざるなり斯くして契約成立と同時の出發前

▲領事館規則なりとて一通の書面に各自捺印を求めしに斯る事に掛けては



民會議員　粂古禮三

兩檢藝妓の席順

撰びまれ口は拔にして濃洒と席順を御意得申上候先づ小檢の方三十番まで揭ぐ

時松、光奴（松葉）れ染、翡翠、勝利、花月、金五郎（清作）勝子、茶羅丸（松葉）玉千代、若龍（清作）政子（井門）今奴、清葉、お茶（花）政菊（清）政彌、はん（花）丸子（清）師子（松）君奴、花大助（清）若一、小政（花）君子（翡翠）鹿の子（花）鶴香（井）金彌、勝次、花鶴羽（清）彌助（花）三太（清）小蓬磨（花）と云ふ所にして時松の一番は淺い池の爲め、アラソウツウ何も申さぬ筈だつたゞけ京城券の二十番迄を御披露すれば左の如し

吉彌（蔦屋）政彌（清水）菊枝（菊家）金子（玉家）春枝（蔦）笑太郎（清水）小金、榮次（玉家）小奴（花家）十郎（花）小京、三幸、仇吉（玉家）雛子（蔦）都江（玉家）秀香（菊家）胡蝶、政吉、濱助、小萬（花家）

●演藝だより

▲壽座　三日の代狂言は「篋の銘刀」全七場二番目「深山の美人」全四場にして重なる役割は左の如し

深津將軍、今野才治（内田）傳吉の女房れ秋、今野妻れ作（松下）島宿傳吉奥山登之助（藤野）傳吉妹れ花（藤田）泉屋宗平（深津）易者五柳軒、人形口上言（雪岡）娘綾羽　北子）勝見武男、道尾亭（後藤）

尙四日の代狂言は一番目「己ヶ罪」喜劇「手管」なりと云ふ

▲歌舞伎座　三日四日は「笹野權三郎」にて切狂言「堀部安兵衛」なり

▲浪花館　三日の語物は左の如し

御祝儀實の入船（入登）朝顔日記宿屋の段（光昇）台邦の辻（照能）菊上ゞ（小町）加賀見山（敷榮）壺坂寺（九寶）菅原松王内の段（小浪）れ半長右衛門（掛合）



本社長峯緊太郎

何なる働きをなすかに三年以來此の太平町に住んで居るがトント知らぬ、所が此組合から先日今度の天長節に何かんご半强請的に各戶を廻り歩行て五十錢一圓と金を集めた南部警察署では是に對して許可を與へてあるのですか一寸伺ひます（太平町民）▲れ數へ申さう但前以てれ斷りするが拙者生來の口舌筆無調法で失禮な文句があるかも知れぬで夫れは數へ賃に御容赦ありたい▲御存じないのは貴君が迂濶だ黑疫流行の兆あつた昨秋なぞ盛んに活動して居た組長は淺灑太郞氏▲天長節に何か催して祝意を表すると云ふことは民長からの勸誘で各町ともに有志者會合何か催すことにしたのだ而して此れは町全體の事で云はゞ自分等が佳節を壽く爲め何かするのだが個人々々ではとての合同計畫なのだ、されば此れは寄附行爲ではない▲半强請とは穩でない要に昔日の所で斷り云ふ身分の出金して居る夫れ故會計の口一ッで官舍ヶ空き居があるに其れを空けておいて宿舍料の二十圓も出して居る二十圓の宿舍料を貰ふて十圓の家賃を拂へば十圓だけ德になるから子一斯くすれば貰ふ人は利益だが夫れで宜しいのか（伺度生）▲果して事實なれば德富氏以來の出來事なり（小僧）

▲仁川の或る役所にては官舍の修繕費を掛けるべしと云ふ所は見ても無いよ（小僧）

性は止めて町内の交際位は爲る樣に心するに京城も永住者を增した出稼人根るのだから」位申したのでしよう▲要祝ですから何方樣にもれ出しを願つてのだから其處で「仕ならぬ天長節のれ

▲太平町衛生組合とかの名目は未だ嘗て聞いた事がない從つて此の組合が如

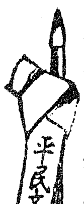


原勝一

沖津の犯罪事實

▽二萬餘圓の横領

仁川水產株式會社專務取締役沖津戶十郎等が横領罪の嫌疑を以て檢事の起訴する處となりしは既報の如くなるが我社の探知する處によれば四十二年同會社の創立以來より四十三年度に於て金二萬餘圓を横領せるものならんと云ふ



●本日の小說增刊　「第五の第三面」にあり

廣告

▲店舖分ヶ貸▼

○本町通り目貫一等の場所間口二間及二間半貸してもよろし御希望の方は詳細本社へ來談あれ

第十三回決算報告

（自明治四十四年四月壹日　至同年九月卅日）

貸借對照表

貸方	負債之部
株金	六〇、〇〇〇・〇〇〇
仲買保證金	一三、〇〇〇・〇〇〇
準備積立金	一、七〇〇・〇〇〇
別途積立金	二三〇〇・〇〇〇
未拂配當金	三、〇二〇・〇〇〇
當座勘定	七八八四・二三〇
前期繰越金	一三五九・五六五
當期純益金	八七一六・六六一
計	六六、三七八・三六七

借方	資產之部
未拂込株金	三六、〇〇〇・〇〇〇
貸付金	三三五二〇・九二〇
備品	一三六二・七〇〇
家屋	九一五・一一〇
有價證券	七、〇〇〇・五〇〇
地所	一、八〇〇・〇〇〇
漁船へ貸附金	三五三・六一〇
繰越欠損金	二〇〇・五〇〇
假立替金	二九二・二〇〇
現金在高	三五八・三三〇
計	六六、三七八・三六九

損益勘定

當期總益金	六、五二一・五七七
當期總損金	四、六四九・九一〇
差引當期純益金	一、八七一・六六七
前期繰越金	一三五・九五六
計	一〇〇七・六二三
内	
準備積立金	一八七・〇〇〇
別途積立金	一八七・〇〇〇
役員以下賞與金	三七四・〇〇〇
配當金（年一割）	一、二〇〇・〇〇〇
後期へ繰越	二五九・六二三

右之通リ候也

明治四十四年九月三十日

株式會社　京城水產物市場

取締役會長　山口太兵衛
專務取締役　前田熊市
取締役　中村再造
同　圓繁太郎
監查役　秋吉富太郎
同　撞早雲五郎

前記之通眞正確ナル事ヲ保證ス